

8 月定例教育委員会会議録【概要版】

開催年月日	令和5年8月23日（水）	場 所	市役所本庁 災害対策本部室
開催時間	13時30分 から 15時00分まで		
出席者	教育長	澤野 幸司	
	教育委員	宮田 靖、久世由美子、高橋勝栄、甲斐千尋	
	参 与	丸山真二、志道里香、竹光俊司、瀬之口博行、早瀬誠一郎、山田 聡、 工藤靖治、山本栄作、太田康晶、岡田健一、下野隆平、柳田忠春、中野 敬、 黒田雄三、後藤和之	
<p>◎ 議 事</p> <p>◆議案第 13 号 延岡市北方ふれあい交流センター条例を廃止する条例の制定について（北方分室）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 北方分室長より、延岡市北方ふれあい交流センターを閉鎖することとなったことによる条例の廃止について説明が行われ、異議なく承認された。 <p>◎ 協議事項について</p> <p>◆部活動の地域移行について（学校教育課・保健体育課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校教育課長より、下記のとおり説明があったのち、協議を行った。 <p>○延岡市における児童生徒数の推移について、令和元年度は小学生は1万3,245人、中学生が7,756人。令和5年度は小学生が5,846人、中学生が2,984人で、令和元年度からすると小学生は7,399人、中学生は4,772人の減少となっている。今後、児童生徒数が減少する中で、部活動が持続困難となる可能性が出てくるのではないかということがこのグラフから見ても分かるかと思う。</p> <p>○令和5年5月1日における延岡市内の各中学校の部活動の状況について、まず「陸上」で延岡中学校は空欄になっているが、これは延岡中の陸上部部員はいないということである。同様に恒富中学校の陸上部も部員はいない。岡富中学校では1年生男子が2人、2年生が6人、3年生が3人であるが、現在3年生は部活動が終わっている。次に「バレーボール」では、旭中学校を太線で囲んでいるが、1年生の女子が7人、同じく女子の3年生が4人となっており、旭中の女子バレー部は合わせて11人で活動しているということである。バレーボールは、6人制なので、6人がコート内に入って、残りの選手はベンチにい</p>			

るというような見方になる。同じように太線で囲んでいる部活動については、基本的には集団スポーツであるが、今後人数が減ることに伴って、部の存続も厳しいと考えられる部活動である。次に「軟式野球部」について、延岡中、恒富中を太い線で囲んでいるが、延岡中は野球部員が14人、恒富中も14人となっている。3年生の部活は終わっているので、延岡中は1年生と2年生の7人で現在活動しているが、学校単独で試合には出られないということになっているかと思う。同じく恒富中は1年生が9人いるので、野球は9人で試合をやるが、何とか試合に出られる状況になっている。太線で囲んでいる競技で多いのが、「軟式野球」と「サッカー」であるが、チームとしての大会出場が非常に今後厳しいという状況である。野球とサッカーといえば、今も人気の部活動であるが、延岡市においては人数が足りずに、複数校での合同チームを組んで大会に参加するという状況が今後出てくるということが考えられる。

○5月1日現在の生徒総数は2,988人、部活動の加入率は77%で、23%が部活に加入していない。部活動数は123、このうち運動部が107、文化部が16となっている。顧問数は207人、そのうち専門である競技を教えている教員が80人、専門外の競技を指導している教員が127人となっている。

○これらのことから、延岡市における部活動の現状と課題として4つ挙げている。①従来と同様での学校単位での体制での運営が厳しい、困難である。②学校によっては希望する部活動がない。③専門的な指導が受けられない。④教員の負担になっている、これは専門外の競技を教えたりしなければならないことなどが教員の負担になっているということである。

○令和3年度までの国の動きとして、平成30年度にスポーツ庁及び文化庁が「部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を策定している。その中では、休養日や部活動の設定について示されたことに加えて、学校と地域が協働融合した形での地域におけるスポーツ環境整備を進めていくということも示されている。また、中教審の答申や国会での附帯決議においても、部活動を学校単位から地域単位への取り組みとして、学校以外で主体的に担うことについて検討を行い、早期に実現するということが決議されたところである。また、令和2年度に文部科学省から「学校の働き方を踏まえた部活動改革について」の通知では、令和5年度から休日における部活動の段階的な地域移行を図るということが示されている。

○令和4年度の国の動きとして、文部科学省における有識者会議の提言の中で、部活動を地域移行する達成目標を令和5年度から7年度末とし、この3年間で改革集中期間とするということが示された。なお、12月のガイドラインにおいては、達成目標が緩和されて、可能な限り早期の実現を目指すこととし、改革推進期間とされたことが公表されたところである。

○国の「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガ

イドライン」では4つ示されている。①学校部活動に関すること。②新たな地域クラブ活動に関すること。③学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備。④大会等の在り方の見直しについて、ガイドラインが示されている。

○①学校部活動について、まず部活動指導員は、学校の職員以外の者が主に顧問として活動ができ、また生徒を引率できるということになっている。延岡市においては、令和4年度は中学校に6人配置し、今年度は14人配置している。この部活動指導員については、校長が地域と協議し、この14人を推薦して、延岡市教育委員会で決定している。次に、外部指導者であるが、部活動指導員とは違って、顧問としての活動はできない。また、引率もできない。但しコーチとしてベンチ入りは可能ということになっている。延岡市においては、令和4年度は22人、今年度は19人が外部指導者となっている。

○②新たな地域クラブ活動について、主な内容として「地域クラブ活動の運営団体、実施主体の整備充実」、「地域スポーツ・文化振興担当部署や学校担当部署、関係団体、学校等の関係者を集めた協議会などの体制の整備」を踏まえ、本市においては、昨年度、教育委員会総務課、学校教育課、保健体育課と歴史・文化都市推進課による市内での実務者レベルの会議を開催し、今年度、「延岡市部活動の在り方検討会」を設置したところである。この検討会は、学識経験者以下数名で構成しているが、第1回目の会議を7月に開催したところである。その検討会の下部組織として専門部会を設置しており、運動部と文化部の2つの専門部会となっている。

○検討会には、学識経験者、スポーツ団体、文化団体等、幅広く人選し、現在協議を進めている。また、専門部会においては、中学校で直接部活動を指導している顧問や中学校体育連盟等に集まっていただき協議を進めている。

○1回目の在り方検討会では、様々な意見があったところであるが、運動部では「活動の意義」、「少子化による学校規模や地域の事情に適した仕組みの構築について」、「スポーツ少年団の受け皿について」、「地域指導者の働き方に関することについて」について意見をいただき、文化部でも資料のとおり意見をいただいた。

○③学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備について、国が令和5年度から7年度までの3年間を改革推進期間と位置付けているので、これに準じて延岡市でも具体的なスケジュールを立てている。今年度、検討会、専門部会等の検討した結果を、教育委員会でも随時報告するが、モデル校実践校等を指定して、それぞれ実践していきたいと考えている。

○④大会等の見直しについて、「大会参加資格を、地域クラブ活動の会員等も参加できるように見直し。日本中体連は令和5年度から全国への参加を承認、その着実な実施」となっている。今年度から、宮崎県でもクラブチームとして活動し

ているチームが、宮崎県の中体連に参加している。中体連からの情報提供であるが、今大会からクラブ活動からの参加は、8競技 146名の参加があったと伺っている。参加のあった競技は、陸上、水泳、バレーボール、軟式野球、卓球、剣道、バトミントン、ハンドボールの8競技となっている。成果と課題については資料に記載のとおりであるが、中体連としては部活動で出場するか、地域クラブ活動として出場するかなど、今後、整理が必要であると同っている。

◎) 延岡市内の各中学校部活動の状況の表について、これは各学校が部活動として認めている競技が左側に並んでいて、その人数が書かれているが、この数字イコール中体連に参加している人数ではないと理解してよいか。社会体育として出てきている子供たちがこれ以外に多い。例えば、体操競技などで中体連に出てきている子どもたちもいる。それは部活動ではなく社会体育として出てきている。だから中体連に参加している数字とイコールではないというふうに理解してよいか。

⇒) そのとおりである。この表はあくまでも部活動としての状況。補足だが、最初に説明した延岡中と恒富中の陸上については、部活動はないが、延岡ジュニアアスリートクラブという地域の陸上クラブにほとんどの生徒が入っているという状況である。

◎) A委員の関わっている水泳もそうである。そこをちょっと整理して、中体連とまた別だというふうにご理解いただきたい。

◎) 今の話では、初めは社会体育じゃなくて全部学校体育だけ。最後になってきたら全部一緒にひっくるめてという話にまとまっていた。その中で考えるとしたら、社会体育と学校体育を一緒に考えてもいいのか。

◎) 今委員が話をされているのは、先ほど言った社会体育で今参加している子供たちの受け皿というものが、例えば、延岡ジュニアという陸上のクラブに参加している子供たちがいるので、その受け皿があれば部活動として認めるという方法で今進んでいるのかという質問でよいか。

◎) 最初のほうの説明では社会体育は入っていないということであったが、説明の最後には、水泳とか学校体育と社会体育が一緒になって試合が行われたのが8チームあったという話であったので、どうやって話したらいいのかと思っているが、行く行くは資料の最後のページにあったような8競技団体のように、みんながこうなるような形が一番理想ということなのか。

◎) 今、資料の13ページに示されたような地域クラブからの参加が

認められることを、延岡市として今議論をしているかどうかということについてということで伺いたい。

- ⇒) 最終的な形はまだ考えていない。クラブチームも受け皿の一つとしては考えられるが、例えば、スポーツ少年団に中学校部活動に移行することも考えられるが、まだそこまでの結論には至っていない。基本的には地域への移行という考えのもとで検討を進めることで考えているが、将来的に部活動を残したままなのか、社会体育、委員が言われたようなクラブチームに移行していくのかなど、これから進めていくことになる。
- ◎) そのための議論を今進めている。どちらもリスクもあるしメリットもある。課題の中で、いろんな地域クラブの大会参加が可能となったことで歪みが生じているとある。例えば中学校で共に活動してきた生徒が地域クラブ活動から出場したことで混乱につながったという今年の例がある。まだ自治体によってバラバラであり、県としても方向性がまだまだ出ていないところで、同時に我々もやっていけないといけない。宮崎県全体の会議においても話が出たが、これが理想だっていうのは、地域によって全然違いがあるんだと思う。県全体の動きを見ながら、延岡市として最適解は何かっていう議論をしないといけないんだろうなと思っている。そのための様々な意見をこの議論の中で今進めていると理解いただきたい。今日も何か結論を求めるのではなくて、これはどうなっているのかとか、いろんな質問や意見等を今出していただくことが大事だと思っている。
- ◎) 今後の動きについての中でモデル校実践という部分があるが、そのモデル校としての姿はどういうイメージで動いていくのか伺いたい。
- ⇒) 専門部会で挙げられたのはサッカー競技で、これは決定事項ではないが、サッカーの人数が減ってきているということで、例えば延岡中学校を拠点として、そこに恒富中や西階中等の子供たちが部活動としてそこに集まって一緒に活動する。そこに地域の部活動指導員を充てて一緒に活動していくというようなところを今考えているところである。これはあくまでも案であるので、これからそのようなことも考えていきたい。
- ⇒) 昨年、県が小林市にモデル実践校を指定している。小林市においては、市と小林市スポーツ協会が連携して、受け皿を作って、外部指導員を派遣するなどの取り組みを行っている。全国各地でこういうモデル校もあるため、今後、参考にしながら、実践モデル校とし

ての指定も考えていきたい。

- ◎) つまり、何のモデルかがまだ決まってない。競技を担保するためのモデルという考え方もあれば、そういった受け皿としてのモデルを作って、その運営という地域移行の受け皿のモデルという考え方もあれば、もう一つは部活動の意義がやっぱりある。その部活動の意義を担保しつつ、学校の運営をどうしていくかっていう意味でのモデルもある。どんなモデルを我々としては試行しながらやっていくかっていうことはまだ決まっていないということを理解いただければありがたい。それだけ、手探りの状態である。
- ◎) 手探りの状態で、大変なんだと思うが、でも令和7年度までは、あと2, 3年しかない。そこで、結論は出ないにしても、こういう形だっていうのを出さないとなかなか進まない。だから、モデル校がまだ決まっていないではなくて、もう少し具体的なものを教えていただけるとすごくありがたいと思う。水泳は社会体育で入っていないが、先日の水泳は学校から出るか、若しくは地域のクラブから出るかっていうことが初めて行われた中体連であった。その中で、人数は少ないが、学校で出る人たちと地域クラブで出る人たちはまずユニフォームから違って来る。クラブのユニフォームと学校側のユニフォーム、そこから違いが出てきて、特に何の問題も起こらなかったが、記録を見たときに、クラブで出るっていうことは、すごくレベルが上がるんだなっていうふうに感じた。リレーなどを中学校で組めば、どうしても1人が弱い場合があり、その1人を誰かがカバーしないといけないっていうことで、いろいろ四苦八苦しなから今までやってきたのが、クラブだったら学校が違っても、記録の良い順番で選ばれていくので、九州大会、全国大会リレーはものすごくレベルが上がっているなど感じたので、これがいいのかどうかは分からないが、水泳はこういう感じで、クラブがあるので、うまい具合に移行されていくのかなあと思う。
- ⇒) 検討会を設置して1回目の会議を開催したが、様々な意見がある。大会への参加など、委員が言われたようなことも含めて幅広く検討する必要があると考えている。検討会の設置の目的は、子供たちのスポーツ文化活動の機会を確保するということ、それから部活動における教員の負担軽減、そういうことも含め幅広く議論していただき、地域に移行した場合の運営のあり方、費用の負担のあり方など課題も多いが、いずれにしても生徒にとって望ましい部活動の環境の整備も必要と考えているので、スピード感を持って、今後協議も進めていきたいと考えている。

- ◎) この表は中学校だけのものだが、小学校でもいろいろ部活動をやっているが、これらは同じ内容だと理解してよいか。
- ◎) 言葉の整理をしたいと思う。今日委員が言われた小学校における部活動というのは、今延岡市でいえば島野浦学園の小学生が唯一部活動に入っているだけである。今日委員が言われた小学校での部活動というのは、もしかするとスポーツ少年団ではないかと思われる。だから、スポーツ少年団のことと部活動とはちょっと整理をしたいと思うので、スポーツ少年団を含めてどう考えているか伺いたい。
- ⇒) 今延岡市の小学校での部活動は、基本的にはない。スポーツ少年団は、基本的には小学生が入ってスポーツ少年団として活動しているところもあるし、A委員が言われたクラブチームに加入している小学生もいる。スポーツ少年団については、中学生も加入できる。スポーツ少年団の対象は小中学生であるので、例えばその中学校の部活動をスポーツ少年団の方にそのまま移行するという方法も一つはあるかと思うが、このようなことも含めて今後協議していきたいと考えている。
- ◎) もう1回整理したいが、今、延岡市に部活動に所属している小学生はいないと言ったが間違いはないか。島野浦学園に小学5年生、6年生から卓球部に入っている子供たちがいるが、あれは部活動に入っているとは言わないのか。中体連の大会に出られないだけで、部活動には入っているのではないのか。
- ⇒) そのことは確認したい。
- ◎) 実はものすごくこの世界は今複雑になっている。今指摘のあったスポーツ少年団を受け皿にして、これを部活動に移行していこうとする地域もある。言葉をきちんと整理しないと、我々の言葉で整理をしていかないと、話している内容でミスマッチが起きてくることになる。今の小学校の部活動もそう。国も悪いと思うが、迷走している。この議論は非常に丁寧にやっていかないと。先に突っ走ってしまって後から制度が変わったときに、いやいやそれはできないよねっていう話になってしまう。特にお金がかかる話について、例えば受け皿を作ったはいいが、その受け皿に入るためにはお金が必要だとなってくると、今までの部活動では育成会でお金を払わないといけないことはあったわけだが、受け皿を作って、そこを運営するためには当然お金が必要。それを保護者の負担にしてしまうと、もしかすると、生活に非常にゆとりのない家庭からすると、子供たちは運動部活動に入れない状況が生まれてくる。そういったお金の話

も整理をしないとイケない。このことについて、国もまだ何も結論を出していない。一つ確認だが、令和8年度がスタートとなっているが、コンプリートした形でスタートできると考えているか伺いたい。

- ⇒) 8年度を目標に検討していくが、県内の他の自治体等の状況も踏まえながら、進めていきたいと考えている。
- ◎) やはりはっきりとは言えない状況である。私自身は8年度にコンプリートした形でスタートするのは無理だと思っている。ただ、方向性はある程度この3年間で出していかないとイケないと思うが、そこはきちんとしたものはなかなか難しいのではないかなど思っている。現状の部活動を維持しつつ、新たな展開が、延岡市ではこういう方向もあるよねというところが出てくるだけでも、この8年度あたりにスタートできればいいんじゃないかなど、やりながら考えないと多分うまくいかないのではないかなど思う。そういった意味では、我々はずっとこうやって協議をしていきながら、あるところで方向性について私たちも承認していくことが必要かなど考えている。ぜひ中学校に学校訪問された時に生の声を聞いていただくとありがたい。
- ◎) 早くやらなくちゃいけない、念入りにてやらなくちゃいけないっていう中で、やっぱり一番は、子供たちがどう頑張ってくれるかっていうことを忘れずに、自分たちがここで決めた方向性に乘せていくことだと思う。中学校のスポーツってやっぱりすごい。ここでスポーツがしっかりやれているかやれていないかによって、大人になったときに、我慢する気持ちとかいろんな気持ちが出てくるので、子供たちのために、延岡市は考えて欲しいなと思う。
- ◎) A委員の意見に賛成である。私は50年前になるが、中学校に入った時、勉強よりもクラブ活動が好きでとても楽しかった。先生達も熱心に指導していただいた。今の子供たちも、中学校に行ったら部活動があるよと、その目的意識をはっきりと、頑張ればこういう大会にも出られるよっていうのを、はっきりした数値というか、そういうのを立てて、部活動を通した子供たちの育成、勉強ばかりではなくて部活動を通した人間関係とか社会の仕組みとかそういうものを学ぶ場所として、やっぱり目的意識をはっきりさせて欲しいなと自分は感じた。
- ◎) そこはぶれないで、我々も事務局も同じ気持ちで今進んでいると思う。
- ⇒) この検討会での検討結果を教育委員会に報告することとなっております。

り、会議の進捗状況に応じて報告することとしている。委員の意見にもあったが、子供たちにとってどうするかということを中心に検討会で検討していくことになるが、例えばアンケートを実施するなどの意見もある。

- ◎) 我々の承認が必要な内容については、ある程度事務局と私で整理をさせていただいて、こういう協議ではなくて、きちんと議事に挙げて、方向性を担保しながら進めていきたいと思う。ボリュームのある内容を、学校教育課で少ない人数のスタッフで進めているので、実は本当に苦勞が多いところである。苦勞があったかと思うがぜひまたよろしくお願ひしたい。

◎ その他

◆ 9月定例教育委員会の日程について（総務課）

- 9月定例教育委員会については、9月27日（水）の13時30分から、災害対策本部室で開催する。

◎ 閉会

澤野教育長が閉会を宣し、終了した。（15：00）